

介護老人保健施設しおさい

症 例 概 要 利用者： 80歳代・女性・介護度3
利用期間 ： 令和3年 3月より長期入所を利用中
病 名 ： HT・脊椎圧迫骨折
既往歴： 子宮筋腫・左脛骨高原骨折・胸椎圧迫骨折

配偶者を早くに亡くされ、福祉サービスを受けることなく長い間独居にて生活をされていた。しかし、骨折や認知症の進行により独居が困難となり、入所に至った。入所後、徐々に施設での生活に慣れ、前向きになりADLが拡大し施設での生活を楽しいと思えるようになって頂けた症例。

内 容

入所前は、圧迫骨折の痛みによりほとんど動けなかったが、もともと控えめな性格で遠慮深く、周囲に頼らずにいたため、日常生活もままならない状況だったそうです。病院での療養後、当施設にご入所時は、「一人だから帰ることも出来ないよ、ここにいるしかない。」と悲観的な発言をされていました。髪も伸びきっておられ、表情も暗く、口数も少ない印象でした。

ご入所後、施設での生活に慣れて頂く事と、メリハリのある生活になるように、職員が積極的にコミュニケーションを取って、毎日髪を結って整容したり、集団体操やレク活動への参加を勧めました。

集団生活の中で、ご自分の意思を中々言うことが出来なかったため、「気を遣うぐらいなら自分でトイレに行けるようになりたい」とおっしゃいました。初めてご自分から意欲的な発言が聞かれた為、その目標の為にリハビリ室と連携し、現状の把握と情報共有、その段階でのケアの統一を図りました。一日中、車椅子移動やお手洗いなど、リハビリ以外の時間も全て職員が付き添い、ご自分で出来ることはやって頂くよう生活リハビリを強化しました。車椅子の自走も初めてで、日常生活行動に時間を要し、いつも最後になっていましたが、操作のやり方を繰り返し練習し、懸命に頑張られていました。

毎日の生活リハビリを積み重ねていくと、自走や出入りなど徐々に出来るが増えていきました。目標達成に近付いていく頃には、同室者の方々と談笑されたり、真剣に塗り絵をされたり、器用に花の壁飾りを作られるなど、意欲的に参加される姿をよく目にするようになりました。

さらにリハビリが進み、歩行器での歩行練習も行われるようになった頃、散髪をされ、さらに印象が変

まりました。見た目の変化だけでなく、表情が豊かになり、色々なお話しをして下さるようになりました。小さなことも積み重ねて行けば大きな変化に変わると身を持って教えて下さいました。施設での生活を改めてどう感じていたのか伺うと、「一人だからここにいるしかないのは変わらないよ。だけどここにいれば楽しいし何にも困らない。」と仰っていました。今は、遠位監視でトイレ動作の自立が出来、目標達成も間近です。

長きに渡り独居をされていた方にとっての施設での生活は、不安や負担も大きかったと思います。しかし、しおさいにご入所されてから、日々の生活の中で前向きになり、何も意欲のなかった方が、自分でトイレに行きたいなど新たな目標を持ち、レクや活動を生き生きと楽しんで行い、たくさんの笑顔を見せて下さるようになりました。

その表情はご入所時と別人のようです。これからも、利用者さんの笑顔が見える施設を目指して、職員一丸となって努めて行きたいと強く思えた症例でした。